

KGI (Key Goal Indicator)	最終的な目標数値
CSF (Critical Success Factors)	最重要プロセス (成功要因)
KPI (Key Performance Indicators)	コントロールできる CSF の数値目標

KPI マネジメントは、現在の数値を把握、即時に入手できるデータ、モニタリングすべき数値の管理。

1. KGI の確認	RPA 活用による削減効果 <ul style="list-style-type: none">削減効果（時間）＝ RPA 導入前の作業時間 - RPA 導入後の作業時間削減効果（コスト）＝ RPA 導入前のコスト - RPA 導入後のコスト									
2. ギャップの確認	期末予測 KGI と現在のギャップ <ul style="list-style-type: none">ギャップ＝ 期末予測 KGI（前年ベース） - 現在の KGI									
3. プロセスの確認（モデル化）	削減効果＝アプローチ数×歩留り率（稼働中） <table><tr><td>アプローチ数</td><td><ul style="list-style-type: none">ハンズオン研修の回数提供するミニロボ数開発中ロボの個別サポート回数</td></tr></table>		アプローチ数	<ul style="list-style-type: none">ハンズオン研修の回数提供するミニロボ数開発中ロボの個別サポート回数						
アプローチ数	<ul style="list-style-type: none">ハンズオン研修の回数提供するミニロボ数開発中ロボの個別サポート回数									
4. CSF の設定	<ul style="list-style-type: none">RPA 導入の成功率 歩留り率（稼働中）＝ 稼働中ロボ数 / 総ロボ数開発者数＝ ユーザー数×歩留り率（開発中）削減効果＝ 開発者数×削減時間×単価×歩留り率（稼働中）<table><tr><td>定数</td><td><ul style="list-style-type: none">単価</td></tr><tr><td>変数</td><td><ul style="list-style-type: none">ユーザー数歩留り率（開発中）歩留り率（稼働中）</td></tr></table>		定数	<ul style="list-style-type: none">単価	変数	<ul style="list-style-type: none">ユーザー数歩留り率（開発中）歩留り率（稼働中）				
定数	<ul style="list-style-type: none">単価									
変数	<ul style="list-style-type: none">ユーザー数歩留り率（開発中）歩留り率（稼働中）									
5. 目標の設定	前提：サポート要員のスキル向上 <table><tr><td>KPI</td><td>数値目標</td></tr><tr><td>ハンズオン研修の回数</td><td></td></tr><tr><td>提供するミニロボ数</td><td></td></tr><tr><td>開発中ロボの個別サポート回数</td><td></td></tr></table>		KPI	数値目標	ハンズオン研修の回数		提供するミニロボ数		開発中ロボの個別サポート回数	
KPI	数値目標									
ハンズオン研修の回数										
提供するミニロボ数										
開発中ロボの個別サポート回数										
6. 運用性の確認	<table><tr><td>整合性</td><td>ロジックが正しい。 下記 KPI 施策を増加すれば、RPA 導入の成功率が向上する。<ul style="list-style-type: none">ハンズオン研修の回数提供するミニロボ数開発中ロボの個別サポート回数</td></tr><tr><td>安定性</td><td>安定的にデータを入手できる。</td></tr><tr><td>単純性</td><td>メンバー全員が理解できる。</td></tr></table>		整合性	ロジックが正しい。 下記 KPI 施策を増加すれば、RPA 導入の成功率が向上する。 <ul style="list-style-type: none">ハンズオン研修の回数提供するミニロボ数開発中ロボの個別サポート回数	安定性	安定的にデータを入手できる。	単純性	メンバー全員が理解できる。		
整合性	ロジックが正しい。 下記 KPI 施策を増加すれば、RPA 導入の成功率が向上する。 <ul style="list-style-type: none">ハンズオン研修の回数提供するミニロボ数開発中ロボの個別サポート回数									
安定性	安定的にデータを入手できる。									
単純性	メンバー全員が理解できる。									
7. 対策の事前検討	KPI が悪化した場合の対策 <table><tr><td>時期</td><td>1 か月</td></tr><tr><td>程度</td><td>想定より 20%低い場合</td></tr><tr><td>施策</td><td>リーダーがメンバー（サポート要員）のスキル向上をサポート</td></tr></table>		時期	1 か月	程度	想定より 20%低い場合	施策	リーダーがメンバー（サポート要員）のスキル向上をサポート		
時期	1 か月									
程度	想定より 20%低い場合									
施策	リーダーがメンバー（サポート要員）のスキル向上をサポート									

	<table><tr><td>判断者</td><td>リーダー</td></tr></table>	判断者	リーダー
判断者	リーダー		
8. コンセンサス	メンバー全員が合意するため毎週ワークショップを実施。		
9. 運用	上記ワークショップで、運用を継続的に見直し、改善を図る。		
10. リーダーの役割	<ul style="list-style-type: none">● マネジメント戦略の立案： チーム全体のマネジメント戦略を立案し、メンバーと方向性の認識を合わせる。● メンバーの成長に責任を持つ： チームのパフォーマンスを最大化するために、メンバーの成長を促進し、最高の成果を引き出す。● 心理的安全性の提供： メンバーのミスや失敗を許容し、バックアップする。		
11. メンバーの役割	<ul style="list-style-type: none">● 主体的な行動： 自ら最適な行動を考え、リーダーに提案する。● 自走するチームの一員： 自ら主体的に行動し、チーム全体の成果に貢献する。● 相互支援： メンバー同士でフォローシップを発揮し、互いにサポートし合う。		